

3. 1年生と年長児の交流の実際



交流の実際 6/27

『第1回 七夕飾り・ドッジボール』

【ポイント】

- 安心して交流させる
⇒人(ペアの組み方)
⇒場所(保育所)
⇒活動内容(経験のあること)

【子どもの姿】

- 安心感をもつ
- 自信をもって活動する
- 自分から関わろうとする



交流の実際 10/27

『第2回 秋みつけ』

【ポイント】

- 事前の活動で思いを膨らませる
- 児童の思いを次の活動につなげる

【子どもの姿】

- 自然への興味・関心を深める
- ペアへの意識をより明確にする
- 次の交流につながる発言をする



交流の実際 12/4

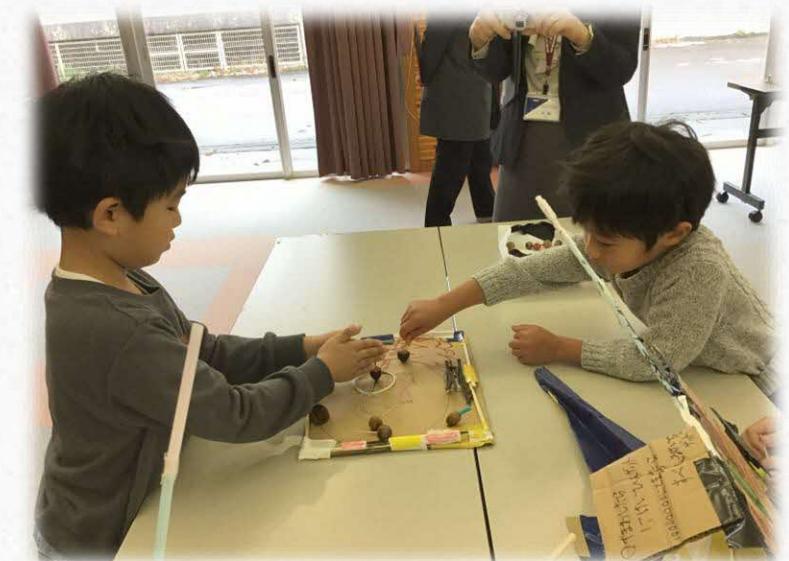
『第3回 あきまつり』

【ポイント】

- 遊びきるための環境を工夫する

【子どもの姿】

- 自分の思いや考えを伝え合う
- おもちゃの遊び方を教え合う
- 満足感・達成感をもつ



その他の連携について

小学校職員による
保育所での日常の様子の参観



年長児・1年生以外の担当保育士、
教員の交流学習への参加



保育所職員の
小学校での絵本読み聞かせ



小学校職員による保育の参観・体験



保育士による小学校の授業参観



2025/04/19 13:30

交流を通しての年長児の変容

【保育所年長児】

- ・1年生になることをすごく楽しみにしている様子が見られ、期待感が高まっている。
- ・様々な活動に対して意欲が向上し、「やってみよう」という気持ちが増した。
- ・ドッジボールでは、1年生の強さを見て感じとり、どうしたら強くなるか、年長児だけで秘密の特訓を考える姿が見られるなど、自分から進んで取り組む姿が増えた。
- ・交流3回目のあきまつりでは、自分たちで考え、作ったおもちゃと一緒に遊んだことで、達成感や自信をもてたと感じた。
- ・1年生に優しく接してもらったことで、保育所でも年下の友達に優しく言葉をかけたり、世話をしようとしたりする姿が増えてきた。

交流を通しての児童の変容

【1年生児童】

- ・交流を行う毎に、交流を楽しみにする気持ちが増していた。
- ・入学しても保育所といつでもつながっていられる、成長を見てもらえるという安心感をもって1年間を過ごすことができた。
- ・交流の時だけでなく日常生活の中にも、年長児を気にする姿や、友だちと助け合う姿など、相手意識のある行動が多く見られるようになった。
- ・来年度、年長児が1年生になって入学してくることをとても楽しみにしている。
- ・自分で調べたり繰り返し試したりするなど、学びが自分事となり、主体的に取り組む姿が増えた。

交流を通して職員の気づきや学び

【保育所職員】



自信をもって行動
しているね。

安心して自己発揮
できているね。

自分から進んで行
動しているね。



1年生は、優しさ
や責任感が育って
きたね。

交流を通して職員の気づきや学び

【小学校職員】

自分のことが
自分でできるね。



生き生き
しているな。

1から教えなく
てもいいんだ。

関わり方が自然だね。

できていることを
さらに伸ばしたいな。



4. 取組の成果及び 課題と今後に向けて



成果

- ・先ほど紹介した子ども（期待する子ども像等に関する姿）の変容・職員の気づきと学びがあった。
- ・今年の重点的な取組としてあげていた**子ども・職員同士の日常的な関わりを実施**（絵本の読み聞かせ、授業・保育参観、保育体験等）することができた。
- ・一年目の目標である南小校区の架け橋期のカリキュラム（基盤）を子どもの姿と対話しながら、作成することができた。
- ・保育所、学校、行政が意識して保育・教育に関わったことで、スクラム教育の活性化が図られた。
- ・**新たな交流の形に挑戦**したことでの、保小連携の良さや可能性、学びの連続性等を再確認することができた。
- ・保育所と小学校の職員が、子どもの姿をもとに、何を育てたいのかを共通理解し、交流の内容や環境設定、支援方法を確認するなど、学期ごとにしっかりと話し合い、計画を立てて交流を実施することで、**互恵性のあるより良い交流**ができた。また、保育所と小学校の職員にとっても、教育内容の相互理解が深まった。

課題及び今後に向けて

- ・今年度作成したカリキュラムを、どう実践し、つながりを継続していくか。
- ・担当職員以外をどう巻き込んでいくか（研修の持ち方等）。

期待する子ども像
『自信をもって、主体的に遊びや学びに向かおうとする子』
の実現に向けて



ご清聴ありがとうございました

資料① 架け橋プログラム実施計画書

【様式2】
令和7・8年度鳥取県幼保小の架け橋プログラム推進事業（令和7年度事業）
実施計画書

令和7年 6月 5日

（市町村名）岩美町（校名）岩美南小学校
（学校名）岩美町立岩美南小学校（職名）校長（氏名）石名 勝実
（園名）岩美町立みなみ保育所（職名）所長（氏名）森田 るり子

1 重点的な取組

日常的に職員同士の交流機会を設け、児童の相互理解を深めるとともに、遊びから学びへの連続性を意識した保育・学習指導に取り組む。

※「令和7・8年度鳥取県幼保小の架け橋プログラム推進事業実施要領 6事業内容」

③連携・接続の推進体制の構築（・行事への参加や相互の施設利用など、日常的な交流の推進）

2 実施計画

実施予定時期	具体な取組	経費等
6月 2日（月）	○第1回1（1年生）・5（5歳児）交流事前検討会【③】	
6月 23日（月）	○第1回1・5交流合同指導案検討会【③】	
6月 25日（水）	○小学校での授業補助体験、保育士による小学校での絵本の読み聞かせ【⑦】	
6月 27日（金）	○第1回1・5交流&事後検討会【①④⑤】 ・保育所内で1年生と年長児が交流活動を行う	接続アドバイザー派遣①
7月 3日（木）	○第1回岩美町保小推進協議会【①②】 ・校ごとによる目標子ども像の設定 ・年間カリキュラム作成に向けて	
7月 10日（木）	○みなみ保育所内研修会【①③】	
7月 16日（水）	○小学校での授業補助体験、保育士による小学校での絵本の読み聞かせ【⑦】	
7月 29日（火）	○保育参観体験&第1回 南小校区保小連絡協議会【①③⑦】	

○7月末までに職員の負担にならない程度に、以下のような園内・校内体制を日常的に整える【③】
・保育参観体験までに小学校職員が必ず1回、短時間でもいいので保育所に訪問・見学を行う。
・月1程度で保育士が小学校に訪問し、読み聞かせを行う。
・推進リーダーを中心に行事などの連絡をこまめに取り合い、参加・見学が気軽に見えるよう園内・校内体制を整える（週次に入れ込み職員に紹介する）。
・園内・校内掲示や児童作品を職員同士が見合う機会を設ける。
・休憩時間等に園児と生徒が一緒に遊ぶような機会を設ける。
・保小の職員同士が顔見知りとなるよう、様々な機会（いもの水やり、散歩、プール借用時等）に声を掛け合う。
・図画工作科、生活科等で保育士による小学校での授業補助体験を実施する。

9月頃	○第2回1・5交流検討会【③】 ・東部教育局指導主事による助言指導	
10月頃	○第2回1・5交流&事後検討会【①④⑤】	接続アドバイザー派遣②
10月 10日（金）	○第2回岩美町保小推進協議会【①②】 ・これまでの保小連携の取組の共有と今後の取組 ○第2回スクラム教育運営委員会兼推進委員会【①②】 ・第2回岩美町保小推進協議会を受けての来年度に向けた情報共有	
11月	○南小校区就学時健康診断【③⑩】	
12月	○第2回 南小校区保小連絡協議会【③】 ・保育所から小学校への引継ぎ ・就学時健康診断時の様子	
2月	○第3回1・5交流事前検討会【③】	
2月 24日（火）	○第3回岩美町保小推進協議会【①②】 ・2月5日の会を受けての次年度の方向性検討 ○第4回1・5交流『保小授業研究会』【①④⑤】 ○第3回 南小校区保小連絡会【③】 ・小学校入学前最期の引継ぎ	接続アドバイザー派遣③
実施予定時期	令和8年度	経費等
4月	○旧年長担当保育士等による小学校初参観日の参観【③】 ○旧年長担当保育士等による読み聞かせ【⑦】	

資料② 第1回 1・5交流事後検討会資料まとめ

6.27 第1回 1・5交流（みなみ保育所 岩美南小学校）

- ・飾りを合体させて工夫していた
- ・自分なりに考えて作っていた
- ・1年生の作ったものを真似たり、自分なりに工夫したりして制作を楽しんでいた
- ・小さいもちろんを作り、1年生に見せていた

・巣りを合体させて工夫していた ・自分なりに考えて作っていた ・1年生が作ったものを見取たり、自分なりに工夫したりして制作を楽しんでいた ・小さいちょうんを作り、1年生に見せていた	4	思考力の芽生え ⑨	身近な事象に漸進的に関わる中で、物の性質・仕組みなどを感じ取り、気付いたり、考へたり、手作りたりして工夫したりするなど、多岐な方法で関わる中で、自分なりに考えたりして工夫したりするなど、新しい考え方をもつて関わるなど、自分の考え方をよりよいものにするようになる。	5	・輪郭りを通してみようかと年長児を気にかけて作っていた ・すららんテーブルを鼻で鳴らすとくっつと気付いた ・失敗したところを修理 ・スズランテーブルを小ささで切るところに手で切ることに気付か教えてあげていた ・難しいところをやってあげていた
	0	自然との関り・生命尊重 ①	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探索心をもつて考えや言葉など表現しながら、身近な事象への関心が高まることになると、自然への愛着や畏怖の心をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、命の想いをぎざぎざと感じつけ、身近な動植物への接し方を学ぶ。斯かるものにしていたり、大きく異なる気質ももって関わるようになる。	0	
・見本と同じ色、〇ちゃんと一緒に ・今まで頃目（まだまだ意欲あり） ・3つできた ・1年生と一緒に数をかぞえる ・後、一人足りない	5	数量や図形、標語や文字などへの関心・感覚 ⑧	遊びや生活の中での、数遊び、図形、標語や文字などの遊びに興味をもたらす。また、遊びや生活の中での、数量や図形、標語や文字などの遊びに興味をもたらす。また、自分の必要感に基づいて遊びをする。自分の必要感に基づいて遊びをする。何気なく自然を楽しんでいた。スズランテーブルの下で隠れてすることを覚えていた。自分の想いを表現できる。あみあみの作り方を教えてくれてありがとう。外遊びがいい人としていた。外遊びがいい人としていた。自分の感想を発表できる	3	・繩つなぎを見ながら6こできた ・数を教える ・もうちょっとで10時になっちゃう
・〇〇くんが考えたやつ作っている ・ドッヂボールを使しかった ・ありがとう ・楽ししかったと伝えていた ・外野を決める時、じゃんけんしたらと提案していた ・〇〇くんがいた ・自分の感想を教えてもらっていた ・自分の感想を教えてもらっていた ・何かいい人としていた ・自分の想いを表現できる ・あみあみの作り方を教えてくれてありがとう ・外遊びがいい人としていた ・一年生が優しく声をかけてくれて嬉うううにしていた ・〇〇ちゃんにあみあみのかぎりを教えてもらって「ありがとう」 ・切らじにこうしている! 1年生に切ってあははうかと言っていた ・ハサミが切れにくく、1年生にハサミをかけてあははうしようしていた ・1年生が作った物を見て、「すごい」という声が聞かれた。自分も作ってみたいという気持ちになったようだった。	23	言葉による伝え合い ⑩	保育士や友達と一緒に歩きを進む中で、絵本や物語などに耳をみならう。豊かな言葉や絵本の読み聞かせで、経験したことをやさやかにまとめて語り、言葉による伝え合いを楽しむようになる。	26	・次の活動の話題で盛り上がっていた ・ドッヂボールで応援していた② ・年長うにきなから ・やり方を説明 ・作り方を使わないんだー ・作り方の説明してないんだー ・次はそれを作りたい聞いてあげていた ・自分の想いを年長に伝えることができた ・自分の想いを年長に伝えることができた ・やさしく話す、きく ・周囲に話しかけたりして相手の話を注意して聞いていたり、言葉による伝え合いを楽しむようになる。 ・見本を見ながら作るううかと相談しながら決めていた ・みんなの前で楽しめたことを説いていた ・こんなもの作ったよ、やってみる、こううう感じで教えていた ・年長見に何作るときいて一緒に決めていた ・ペアの友達の名前をよびぱにになっていた ・見本を見ながら作るううかと相談しながら決めていた ・みんなの前で楽しめたことを説いていた ・こんなもの作ったよ、やってみる、こううう感じで教えていた ・年長見が作っておせたものに対して「いいね」の声掛けをしめていた
・色々作り方を工夫していった	1	豊かな感性と表現 ⑪	心をかかれて出来たなどに、触り感覚が働かせることで、様々な素材の特徴や表現の方法などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、表現友達と自分の経験を共有したりして、表現する音をひくい、意識ももつようになる。	10	・部屋で見つ「なつかしい」 ・ちゅうらの歌を歌って歌で書いて歌う ・スズランテーブル組み合わせてみあにしていた ・様々な材料を使い、自分の「メモ」を制作していた ・周りに何が伝わらない作品をつくっていた ・四葉のクローバーの作る方法を教えていた ・小さい折り紙で紙を折るところを「くみしき」と呼んでいた ・工夫している大切な紙折り紙を作っていた ・ちよと違うかじり、じよあおるといつて「天の川」をつくっていた ・「こじよとしらかわいり」作っているのを見せていた

【10の姿ワークシートから】

- 「協同性」35付箋、「言葉による伝え合い」が49付箋と多かった
 - 「自然との関わり、生命尊重」が0付箋だった
 - 「自立心」は旧章の次から多く見られ、「協同性」・「豊かさ感性と表現」は旧章の次から多く見られ

資料③ 第1回岩美町保小推進協議会 資料

(岩美西 岩美北 岩美南) 校区	
ステップ1：児童の実態を考えよう	
年長児の強み	1年生の強み
年長児の弱み	
1年生の弱み	
ステップ2：目指す子ども像について	
ステップ3：育みたい資質・能力について	

(岩美西 岩美北 岩美南) 校区	
ステップ1：児童の実態を考えよう	
年長児の強み	1年生の強み
<p>コミュニケーション能力 (高)</p> <p>やさしい、困っている友だちに声をかけられる子が多い</p> <p>みんなでならがはれる</p> <p>園は力</p>	<p>チャレンジ精神</p> <p>何でも楽しめる</p> <p>最後までがんばれる、あきらめない</p> <p>安心感、経験があることに対しては、とても前向きにはれる</p>
仲間づくり	
年長児の弱み	1年生の弱み
<p>周りにさすがで、一歩ひく (ひらがうに行動)</p> <p>自信がない</p> <p>指示待ち</p> <p>流れやすい、自分で考えて行動がなかなか苦手</p> <p>失敗：おそれる</p>	<p>周りがみれない</p> <p>指示待ち</p> <p>流れやすい、自然性・主体性△</p>
ステップ2：目指す子ども像について	
自信をもって、主体的に遊びや学びに向かおうとする子	
ステップ3：育みたい資質・能力について	

(岩美西 岩美北 岩美南) 校区	
ステップ1：児童の実態を考えよう	
年長児の強み	1年生の強み
<p>元気、元気</p> <p>自分の思いを伝えよう！意見</p> <p>優しい、気がつく</p> <p>ルールの助け手</p>	
年長児の弱み	1年生の弱み
<p>話聞けない</p> <p>発信力、工夫</p> <p>考える力、自信がない</p> <p>すぐに聞く</p> <p>→ すぐ聞く</p>	
ステップ2：目指す子ども像について	
自立心、言葉による伝え合い、正しく自分の議を立てる！	
ステップ3：育みたい資質・能力について	

(岩美西 岩美北 岩美南) 校区	
ステップ1：児童の実態を考えよう	
年長児の強み	1年生の強み
<p>園はのめんどくさじで楽しんで、年長の子たちと仲良くして過ごす</p> <p>おもてなし、人なつこい</p> <p>お手伝いが好き</p> <p>おもちゃを多く持つておき、おもちゃは大切に扱う</p> <p>おもちゃは大切に扱う、おもてなし</p> <p>友だちが好き</p> <p>遊びが好き</p>	
年長児の弱み	1年生の弱み
<p>おもてなしのめんどくさじで楽しんで、年長の子たちと仲良くして過ごす</p> <p>おもてなし、人なつこい</p> <p>お手伝いが好き</p> <p>おもちゃを多く持つておき、おもちゃは大切に扱う</p> <p>おもちゃは大切に扱う、おもてなし</p> <p>友だちが好き</p> <p>遊びが好き</p>	
ステップ2：目指す子ども像について	
おもてなしを聞けたができた、子ども	
ステップ3：育みたい資質・能力について	
<p>おもてなしのめんどくさじで楽しんで、年長の子たちと仲良くして過ごす</p> <p>おもてなし、人なつこい</p> <p>お手伝いが好き</p> <p>おもちゃを多く持つておき、おもちゃは大切に扱う</p> <p>おもちゃは大切に扱う、おもてなし</p> <p>友だちが好き</p> <p>遊びが好き</p>	

資料④ 第2回スクラム運営協議会資料

第2回 スクラム教育運営委員会兼推進委員会(みなみ保・南小)

今後の交流活動の予定及び進捗状況の確認
(架け橋プログラム 就学時検診 保小連絡会 探究活動・キャリア教育における中高連携 等)
○2学期は話し合い済 11月6日
○12月16日 検討会
○12月4日 1年生と年長児の交流 3回目
○12月未定 5年生と年長児の交流
○出前授業
○読み聞かせ

スクラム教育促進のための校区の課題	課題に対する手立て、取り組み(案)
睡眠 読書 認知能力 非認知能力等 ○睡眠が課題 保: 9:00までに寝る 9% 9:30 71% 10:00~10:30 14%	子どもに9:00までに寝るよう 生活カード活用 子どもの意識を高める
ALTを活用した連携 (各保・小・中・高での ALT 活用状況) 子ども達も慣れてきた 年少にも入るようになった ← 小さい時から開りを	

第2回 スクラム教育運営委員会兼推進委員会(中学校・高等学校)

今後の交流活動の予定及び進捗状況の確認
(架け橋プログラム 就学時検診 保小連絡会 探究活動・キャリア教育における中高連携 等)
○高校総探発表会を中学生が参観
○高校の総探の時間を中学校教員が参観
○高校調べに高校の校長が講演、生徒の代表者が講演

スクラム教育促進のための校区の課題	課題に対する手立て、取り組み(案)
睡眠 読書 認知能力 非認知能力等	
ALTを活用した連携 (各保・小・中・高での ALT 活用状況) ○高校ALTと中学校ALTの 合同研修 ○高校生が中学校へイングリッシュキャラバン	

資料⑤ 架け橋期カリキュラム（基版）

R6 繋ぎ橋脚のカリキュラム

(みなみ)保育所

100

(培英南)小学校八

